

第2回 羽田空港D滑走路破損事案対策検討委員会 議事概要

日時：令和8年7月28日（火）15:00～18:00

場所：中央合同庁舎2号館 地下1階 第2会議室A・B

事務局及び航空会社（タイヤバースト事案関係）より説明後、委員等から以下のような発言があった。

- タイヤバーストに至る外的要因の発生場所、タイヤバーストが発生した場所を特定できるような客観的なデータを複合的に見ていくとよい。
- タイヤバーストの原因は鋭利な物体などの外的要因とされるが、質疑を通して、その外的要因の形状等の詳細をタイヤの痕跡を基に特定することは非常に難しいと理解した。
- 羽田空港D滑走路破損事案の調査の計画について、多様な視点での計測・解析から論理的な進め方になっている。今後、調査結果を整理し発信することで、空港に限らず、他のインフラにおける維持管理にも役立てていただきたい。
- ゴムジョイントの破損メカニズムを十分に解明した上で対策に反映すべきである。
- ゴムジョイント部の新たな構造は、フェールセーフを重視し、万が一破壊に至っても航空機に影響を与えない構造を考えることが重要である。
- 新たな構造の案2の樹脂系補修材について、空港では一般的なものであり、適用可能性は高く、懸念点は少ないと考えられる。

以上